

科目区分	専門分野 I	科目名	基礎看護援助論 II (経過別・症状別看護)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学期	第2学期
担当講師	藤川 幸子(臨床経験13年、教育経験24年)、栗井 京子(臨床経験20年、教育経験12年)				
科目目標	健康レベル別看護の視点および主要症状別看護の援助方法を理解する。				
授業概要	<p>1. 健康レベル別看護:15H 担当:藤川 幸子</p> <p>第1回 健康レベルの概念 (講義) 健康レベル別看護の視点 健康、健康障害:急性期、回復期、慢性期、リハビリテーション期、終末期 クリティカルケア看護、エンド・オブ・ライフ・ケア</p> <p>第2回 急性期・回復期にある対象の看護 (講義) 急性期にある対象及び家族の特徴とその看護、危機モデルの活用(フィンク、アギュラ) 回復期にある対象及び家族の特徴とその看護</p> <p>第3～4回 慢性期にある対象の看護 (講義) 慢性期にある対象及び家族の特徴とその看護、病みの軌跡 セルフケア・自己管理支援、 病との共存(コンプライアンス・アドヒアランス、自己効力感、エンパワメント)</p> <p>第5～6回 終末期にある対象の看護 (講義) 終末期にある対象の特徴とその看護、全人的苦痛、死の三徴候、脳死、死の受容過程 事前指示(アドバンス・ディレクティブ)、ACP(アドバンスケアプライニング) 臨死期の看護、死にゆく過程の身体的変化 死の看取りの援助、死亡後のケア(エンゼルケア)、家族ケア(グリーフケア・ビリーブメントケア)</p> <p>第7回 リハビリテーション期にある対象の看護 (講義) リハビリテーション期にある対象の特徴とその看護、国際生活機能分類(ICF)の概念</p> <p>第8回 科目終了試験:1H</p> <p>2. 主要症状別看護:15H 担当:栗井 京子</p> <p>第1回 呼吸に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 呼吸困難のメカニズムと看護</p> <p>第2回 循環に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 動悸の発症メカニズムと看護 浮腫の発症メカニズムと看護</p> <p>第3回 栄養や代謝に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 嚥下障害のメカニズムと看護、食欲不振の発症メカニズムと看護</p> <p>第4回 排泄に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 排尿・排便障害のメカニズムと看護</p> <p>第5回 活動や休息に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 運動麻痺の発症メカニズムと看護、睡眠障害の発症メカニズムと看護</p> <p>第6回 意識障害に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 感覚障害、言語障害のメカニズムと看護</p> <p>第7回 安楽に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 疼痛発症のメカニズムと看護</p> <p>第8回 安楽に関連する症状を示す対象の看護 (講義) 倦怠感、悪心、嘔吐のメカニズムと看護</p>				
看護師国家試験出題基準	<p>健康レベル別看護、健康や疾病に対する意識</p> <p>急性期:患者の特徴(身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴)、患者の家族の特徴(心理的特徴、社会的特徴)、危機的状況への精神的支援、治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援、代理意志決定支援、心肺停止状態への処置、ショックへの処置、急性症状の応急処置、外傷・熱傷・中毒の応急処置、環境要因による障害の応急処置、感染症への処置、生命の危機的状況のアセスメント</p> <p>慢性期:疾病・障害の受容、慢性疾患の特徴、慢性疾患とともにある生活、治療選択・意思決定への支援、継続的な支援体制と連携、セルフケア能力と行動のアセスメント、セルフケアに影響する要因、セルフケアの工夫への支援、アドヒアランスや主体性の尊重、疾病認識と自己モニタリング、生活と自己管理の調整、患者と家族の相互作用と関係性、患者と家族の抱える問題、退院調整と多職種連携、患者会・家族会の活用と支援</p>				

科目区分	専門分野 I	科目名	基礎看護援助論 II (経過別・症状別看護)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	藤川 幸子(臨床経験13年、教育経験24年)、栗井 京子(臨床経験20年、教育経験12年)				
<p>リハビリテーション期:リハビリテーションの定義、リハビリテーションにおける看護の役割、機能障害と分類 終末期:死の三徴候、死亡判定、脳死、死の受容、エンド・オブ・ライフ・ケア(end-of-life care)、症状アセスメントと マネジメント、全人的苦痛のアセスメントとマネジメント、苦痛緩和と意志決定支援、予期的悲嘆に対するアセス メントとケア、アドバンスケアプランニング、家族ケア、臨死期のケア(身体的ケア、精神的ケア)、家族の悲嘆 へのケア、代理意志決定支援、脳死状態への対応、グループケア、死亡後のケア</p> <p>主要症状別看護 意識障害、ショック、高体温・低体温、脱水、黄疸、頭痛、咳嗽、喀痰、吐血、咯血、チアノーゼ、呼吸困難、胸痛、 不整脈、腹痛、腹部膨満、悪心、嘔吐、下痢、便秘、下血、乏尿、無尿、頻尿、多尿、浮腫、貧血、睡眠障害、 感覚過敏・鈍麻、運動麻痺、けいれん、気分(感情)障害</p>					
授業の進め方					
講義中心とし、学習内容に応じて校内演習を行う。 看護学概論、基礎看護技術、成人看護学総論で既習した基本的な看護の考え方や知識・技術を統合しながら授 業を進めていく。					
履修のポイント・留意事項					
どのような健康障害にも共通する「経過」に焦点をあて、急性期にある対象、回復期にある対象、 慢性期にある対象、リハビリテーション期にある対象、終末期にある対象と分けて、その特徴と看護に ついて学ぶ。 主要症状別看護については、それぞれの症状の発生机序や特徴と対象に対する看護について学ぶ。 授業には事前にテキストを読み、主体的に参加することを期待する。					
テキスト					
新体系看護学全書 基礎看護学4 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社 NEW看護過程に沿った対症看護－病態生理と看護のポイント 学研 その他必要に応じて提示する					
評価方法・配点					
課題レポート、授業態度(演習参加度等)、終了試験を総合して行う。					